

れんごう中越地協

第1063号2021. 2. 1
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
定 価 1部10円
購読料は会費を含む



21年度連合中越地協 新春にあたり

四役とSJTネットが課題述べる

「連合中越地協四役とSJTネット新春対談」は、感染の急激な拡大が収まらず、国による緊急事態宣言が1月7日に再発出されようとしていることから「中止」した。毎年、対談では、各構成組織の課題や春季生活闘争等について意見交換してきたが、今年は「各構成組織の課題や春季生活闘争関係、今年の抱負やめざすもの等について」書面で伺った。

★矢島議長

新年明けましておめでとうございます。コロナ禍のなか、普段とは違う正月気分を味わっているところですが、一刻も早い収束を願うばかりです。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。
さて、コロナ禍で感じるのは、政権と地方自治体の危機意識の温度差があまりにも大きいという事です。菅総理は総理就任に際し、「コロナ収束を第一とし国民の生命を守り、経済を立て直す」と言いながら、GOTO キャンペーンの始期と終期を間違え感染拡大の原因を作り、冬の感

にもかかわらず、この総理はシャイな人で自分の言葉で話すことが苦手な様です。であれば、西村経済担当大臣に指示し、早期の収束の為に国の責任として経済を短期間ストップしますと断言すれば良かったのです。アナリストは言います。コロナ禍の安倍・菅政権の行動は、まさに戦時下の日本の軍の暴走そのもので、政権内部でのコップの中で嵐程度としか思われない、口先だけの演説となっている菅首相は、内閣支持率に右往左往しながらの後手後手の政策が拍車を掛けて負のスパイラル化しています。

冒険盛期に向けての抜本対策を怠りコロナの爆発感染を引き起こし、今では最後のカードである緊急事態宣言に頼らざるを得ない状況下に陥ってしまっています。この先、感染防止の妙案は見当たらないなかで、どうやってこの窮状を回復するか、甚だ疑問であり不安でなりません。先に発出された1都3県の緊急事態宣言にしても、言われたから仕方なく首都圏だけ発令した感が否めません。本来ならもっと早くに総理自ら会見し、全国の移動自粛と飲食業の短を国民に指示する必要があるわけです。

事務局長 小林 守
あつご3
《No.7》
れ、昔からお祓いや清めの行事が行われ、代表的なのが豆まき。鬼を打ち払い、転禍為福、五穀豊穡等の意味があるという▼一年前の節分の日にクルーズ船が横浜港に入港、検疫が行われた。あれから一年が経過したが、深刻度増大だ。一体一年ものあいだ政府は何をやっていたのか。自衛に頼る政策に腹立たしくも情けなく思えてならない▼菅内閣の支持率下落が続いている。コロナ対応が大きく影響しているとのこと。GOTOで人が動けば、接触機会は当たり前に増える。一方、緊急事態宣言再発出も人の出が減らず、自粛を呼びかける。支離滅裂。最悪を前提におくリスク管理の鉄則も見て取れない。ワクチン接種まで、幾波超えれば良いのか。福は内、鬼は外。

★横澤副議長

新年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの構成組織でも様々な影響を受けていると思います。自治労、自治体の職場でも保健所、医療機関の職場はもちろん、そのほかの職場でも様々な影響を受けています。こうした中「もつと公共サービスに投資を！」キャンペーンを行うことにしています。このキャンペーンはコロナ禍で明らかになった、この間の新自由主義的改革で痩せ細った公共サービスの危機を克服するための、公共サービスの拡充を求めているというものです。今、スペイン、フランスなどでは、市民権

21年は総選挙の年です。自分のこと、党のこと、自分のことを優先し、国民への対応は聞こえの良い話ばかりで、いい加減辞易く見えます。桜を見る会前日の収支報告偽装に足しても、突っ込みが不十分です。検察も政権よりなんですね。こんな正義の通らないことを許してはいけません。安倍さんは選挙で再選されたならば、選挙民の良識が問われるならば、山口県4区に選ばれるでしょう。最後の、この先私生活や社会経済活動がどうなるか分かりませんが、地協の活動は継続していきます。コロナ対策をしっかりと行つた上で、形式・日程にとらわれずやれることをやっていきます。ニューノーマルが地協活動の大テーマです。

明日は節分。今年の節分は、3日ではなく2日。節分は、天気予報などでよく耳にする二十四節気等の雑節の一つで、各季節の始まりの日の前の日のこと。今年の立春が2月3日というから、前日の2日が節分▼国立天文台の歴史計算室によると、節分の日が2日になるのは1897年以来124年ぶり、3日でなくなるのは1984年の2月4日以来37年ぶりとのこと。季節がめぐるとのことは、2421904日ほどで、約6時間ずつ遅くなり、うるう年で調整されつつも補正と歴のずれで、今年立春が3日に移り、節分が2日に移つたのだ▼節分といえは「豆まき」。毎年、各地の寺社で豆をまく節分会の映像で流れる。季節の変わり目には鬼や邪気が災いをもたらすと考えら

サラリーマン川柳(カゼひいて 来てくれたのは ピザ屋だけ) (知恵熱を 試験受けない 父が出す) (鬼は外 一度でいいから 豆投げたい) (定年後 家事入門で 土日なし)

21年は変革を更に加速させ、新型コロナウイルス禍でも安心・安定した生活が求められる基盤を確立させることが急務であると考えます。その為に連合を通じて色々な産別の労働者が情報共有ができる場を教宣・文化班で立案し提案していければと思

また、経済情勢では「エネルギー改革」「カーボンニュートラル」が急速に拡大する中、各企業においても変革が求められ、中長期的な経営方針の難しい判断をしていかなければなりません。特にJAMはものづくり産業の中小企業が多い為、他の産別と比べ将来に不安を感じている人達が多いと思われま

す。引き続き構成単組の業績や市場動向を組織で監視して雇用維持・確保を最重要課題として進めたいと思います。

これから始まる春季生活闘争においても、「ジョブ型雇用」「脱ベア」等から、産別による賃金格差が明確化する予見されます。働く者全員の賃金が安定しなければ経済は回らない為、連合を中心に各産別の連携を強化していければと思います。



★野田副議長
2020年は新型コロナウイルスにより、

生活、仕事、組合運動に対してもこの労働組合も支障のあった年でした。このような中で今年、労働組合も新しい運動スタイルが求められます。以前は集まって色々な職場問題について議論ができたが、現在は集まることもままならない中で、どうやって組合員の声を吸い上げ、反映していくのが難しい状況です。一方、一度運動をしなくなると楽を覚えて、いざこれからの時に元の運動スタイルに戻す努力は並大抵ではありません。

今後、組合員を集めるのレクリエーション等も徐々に開催し、いろいろな活動を通じ組合員が労働組合に加入して良かったと言えている運動を進めたいと思います。そのために役員を中心となり、顔と顔の見える運動をコロナ禍において新しい運動スタイルと共に邁進して行きます。

★猪俣副議長

電力総連2021年春季生活闘争は、コロナ禍という今までの誰も経験したことのない環境にあっても、電力の安定供給等を行う上で、社会機能を維持し、国民生活の安全・安心の確保に努めている電力関係産業に働く者が、将来にわたって安全で安心して働くことのできる環境を整備するとともに、その働きの価値に見合った処遇を確保することを目的として、「生産性三原則」のもと、賃金引き上げをはじめとする「人への投資」を促すとともに、「新しい生活様式」への対応を含め、産業を支える人材の維持・確保につながる働き方の見直しを強力で押し進めます。併せて、「サブプライブチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配」に一体的に取り組みます。

★長事務局次長

昨年、新型コロナウイルス感染症の対策に迫られた中で、2月末の国の休校要請から、県内の小中学校では休校措置がとられ、卒業式、入学式と来賓、在校生を出席しない対応をいたしました。また、修学旅行も延期や中止になり、運動会、体育祭、合唱などの行事も開催方法を再

21年は変革を更に加速させ、新型コロナウイルス禍でも安心・安定した生活が求められる基盤を確立させることが急務であると考えます。その為に連合を通じて色々な産別の労働者が情報共有ができる場を教宣・文化班で立案し提案していければと思

また、経済情勢では「エネルギー改革」「カーボンニュートラル」が急速に拡大する中、各企業においても変革が求められ、中長期的な経営方針の難しい判断をしていかなければなりません。特にJAMはものづくり産業の中小企業が多い為、他の産別と比べ将来に不安を感じている人達が多いと思われま

す。引き続き構成単組の業績や市場動向を組織で監視して雇用維持・確保を最重要課題として進めたいと思います。

これから始まる春季生活闘争においても、「ジョブ型雇用」「脱ベア」等から、産別による賃金格差が明確化する予見されます。働く者全員の賃金が安定しなければ経済は回らない為、連合を中心に各産別の連携を強化していければと思います。

検討し、規模縮小や延期、中止の判断を各学校で行いました。これは、子どもたちの命を預かる学校としては、何としても感染リスクを最小限にすると同時に子どもたちの学びと成長の場である学校行事をどのように成立させることができるのか、何度も検討を重ねて実施してきました。これは、今後も続くことが予想されます。これには、1+1=2のような正解が1つとは限りません。今の状況に合わせた最適な回答を導くことが必要となります。そのために、教育活動の中で必須なものとして、

★あけましておめでとうございます
★2021年連合中越地協各支部 支部長挨拶 (その2)
★★★

小千谷支部

支部長 **須田 貴幸**

あけましておめでとうございます。日頃より連合小千谷支部の活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。昨年から続く新型コロナウイルス蔓延により私たちの生活は一変してしまい、生活、雇用、将来に対する不安は募るばかりです。今、私たちは試されています。将来の為に今何が出来るのか? 「月々の貯蓄を1000円増やそう」、「保険を見直そう」、「健康の為に何か始めよう」、「資格取得にチャレンジしよう」など、小さな事から大きな目標まで、今こそ一歩を踏み出す時です。新しい年が皆様にとって実り多き年となりますようお祈り申し上げます。

北魚沼支部

支部長 **山本 英二**

中越地協の中で構成組織数、組合員数が少ない北魚沼支部ですが、お互いの顔が見え、地域でも連合の顔が見えるような支部を目指して、着実に活動を重ねていきたいと思っています。昨年度行ってきた幹事会の定期開催を継続し、構成組織間の交流に力を入れていきます。今年もよろしくお祈りします。

—連合中越加盟単組紹介は次号掲載—

に分け、最悪の事態の発生を想定し、教育活動を再編していくことが求められています。三密を防ぐ手立てや衛生機材の整備を進め、安全に安心して教育活動ができるよう、新教育として感染拡大防止を最優先に考え、活動してまいります。

★富井SJ事務局長
「転禍為福」。20年2月を境に新型コロナウイルス感染症が、経済活動や社会生活を大きく変化させました。我々SJネット委員会の活動も大きな影響を受け、例年実施している活動ができませんでした。

しかし従来の行事を中止、縮小している中でも、ピンチが大きなチャンスであると捉え、NPO法人UNE様の協力のもと新しい試みとして、農園事業を展開してきました。生活困窮者を支援しているフードバンクにいたが長岡センターや子ども食堂などを支援することを目的に「じゃがいも」をメンバーのチームワークにより栽培し、300キロも収穫するできました。そこでは協力しあうことの大切さを「学び」、「交流」、「映画」、「体験」の力で「転禍為福」と捉え、ピンチはチャンスであるとし、人としての成長できる新しい「チャンス」を生み出す

21年度も世界ではワクチンの接種がスタートされたとは言え、直ぐに収束するとは思えません。ピンチはSJネット委員会成長できる絶好の機会と捉え前向きに活動していきます。

SJネット委員会は、今年度半数以上の委員が交代しました。コロナ禍でコミュニケーションが取り難い中、如何に委員同士が団結出来るかが課題です。

このほか今年の抱負は「転禍為福」と捉え、ピンチはチャンスであるとし、人としての成長できる新しい「チャンス」を生み出す